マーケット概況（2023 年 2 月）

2 月の債券相場は、主要国の中央銀行が利上げを停止するとの観測を受けて上昇して始まり、2 日に 10 年 369 回債の利回りは 0.465%まで低下した。同日実施された 10 年債入札は低調な結果となったが、超長期ゾーンは前月末からの堅調地合いが継続した。7 日に行われた 30 年債入札が低調な結果となると超長期ゾーンは一時伸び悩んだが、13 日の 15.5 年超 39 年以下対象の流動性供給入札が順調な結果となると再度持ち直した。15 日の 25 年超の国債買入オペの応札倍率が低下し、21 日の 20 年債入札を無難に通過するなど、超長期ゾーンの良好な需給環境はその後も継続し、30 年債・40 年債は連日直近高値を更新する展開となった。一方で、次期日銀総裁人事に関連して金融政策修正への思惑が燻ったことや、堅調な米国経済指標を背景とした米国長期金利の上昇から、長期ゾーンは重い値動きが続いた。21 日には 10 年 369 回債の利回りは 1 月 18 日以来となる 0.505%まで上昇し、22 日には債券先物 3 月限は月間安値の 146 円 11 銭まで下落した。しかし、超長期債は月末にかけて年限長期化の買いや年度末に向けた積み増し等から騰勢を強め、28 日には 40 年 15 回債の利回りは 2022 年 10 月 4 日以来の水準となる 1.520%まで低下して今月の取引を終了した。

＜短国市場＞

3M 入札は投資家需要を背景に、月前半～半ばは概ね-0.14%台後半～-0.16%台で堅調に推移し、セカンダリー市場では-0.17%台～-0.18%台で取引された。17 日入札の 3M1140 回債では償還日が海外休場となることから海外投資家需要が剥落し、-0.13％台での着地となった。店頭需要は伸びず、24 日の 3M1141 回債入札では最高落札利回りが-0.1303%に上昇したが、入札後は需給好転し-0.180%まで金利低下し終えた。6M・1Y は、日銀の政策運営等の先行き不透明感や担保需要から順調な入札となった。-0.11％台で着地した 6MTDB1137 回債はセカンダリー市場では売り物出難く、出合い無く終えた。1YTDB1139 回債は前回債よりも金利低下し-0.08%台で消化され、-0.090%で取引を終えた。

＜一般債市場＞

10 年地方債は 10 年国債のイールドカーブの歪みが解消されないためカーブ対比では比較し難く、10 年 369 回債比で前月から 5.0bp タイト化し+25.0bp、5 年地方債は前月比同水準の国債カーブ+12.0bp で条件決定した。10 年地方債は国債カーブの歪みや日銀新総裁就任後の政策運営への不透明感から様子見姿勢が強い一方、5 年地方債は投資家需要を背景に順調に消化された。また、SDGs 債関連では、相模原市が初めてグリーンボンド(10 年)を起債したほか、10 年広島県は通常債とグリーンボンドが同額面ずつ起債され、双子発行された。社債は、個人向けの発行が大半を占めたが、発行額は 1 兆 1,425 億円(前年同月比+18%)と前月から大幅に増加した。

◎　主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#369	0.485(1 日)	0.465(2 日)	0.505(21 日)	0.500(28 日)
#368	0.210(1 日)	0.150(28 日)	0.250(27 日)	0.175(28 日)
#358	0.460(4 日)	0.345(3 日)	0.460(22 日)	0.425(28 日)
#155-#156 (5Y)	0.180(1 日)	0.155(3 日)	0.245(22 日)	0.205(28 日)
#183 (20Y)	1.355(1 日)	1.160(28 日)	1.355(1 日)	1.160(28 日)
#1130-#1137 TDB(6M)	―	―	―	―
#1135-#1141 TDB(3M)	-0.180(3 日)	-0.180(3 日)	-0.150(24 日)	-0.180(28 日)